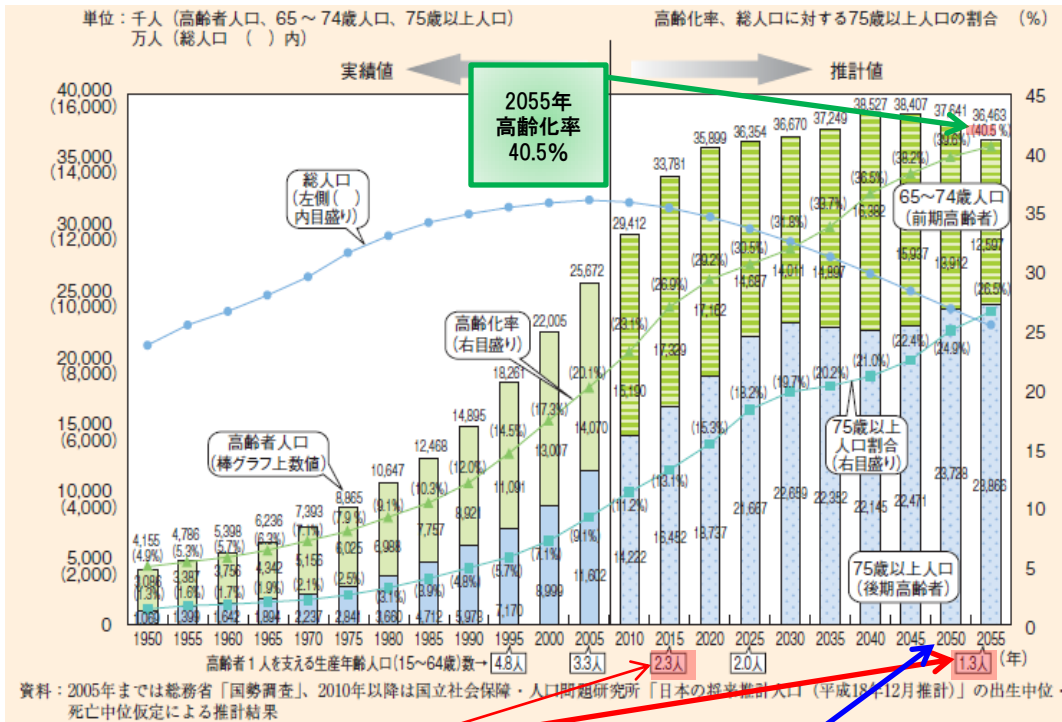


# 高齢社会の現状②

## 日本の高齢化率の推移



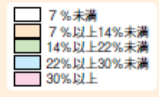
1人の高齢者をささえる 生産人口数は 2015年で2.3人。2055年には1.3人に。95年度に比べて1/2から1/4にまで減少します。

※2050年からの 高齢者総数の減少は人口全体の減少によるもの

## 都道府県別の推移

	平成20年 (2008)	平成47年 (2035)
全国	22.1	33.7
北海道	23.6	37.4
青森県	24.4	38.2
岩手県	26.3	37.5
宮城県	21.5	33.8
秋田県	28.4	41.0
山形県	26.6	36.3
福島県	24.2	35.5
茨城県	21.3	35.2
栃木県	21.1	33.6
群馬県	22.5	33.9
埼玉県	19.1	33.8
千葉県	20.1	34.2
東京都	20.2	30.7
神奈川県	19.2	31.9
新潟県	25.5	36.6
富山県	25.2	36.0
石川県	22.9	34.5
福井県	24.3	34.0
山梨県	23.7	35.3
長野県	25.5	35.6
岐阜県	22.9	33.6
静岡県	22.6	34.6
愛知県	19.2	29.7
三重県	23.1	33.5
滋賀県	19.7	29.9
京都府	22.4	32.3
大阪府	21.2	33.3
兵庫県	22.1	34.3
奈良県	22.6	36.8
和歌山県	26.1	38.6
鳥取県	25.5	34.5
徳島県	28.6	37.3
岡山県	24.3	33.4
広島県	23.0	34.5
山口県	26.9	37.4
徳島県	26.1	36.7
香川県	24.9	35.9
愛媛県	25.6	37.0
高知県	27.8	37.4
福岡県	21.4	32.6
佐賀県	23.9	34.2
長崎県	25.2	37.4
熊本県	25.1	35.6
大分県	25.9	35.6
宮崎県	25.2	36.9
鹿児島県	26.0	35.9
沖縄県	17.2	27.7

資料：昭和50年は総務省「国勢調査」、平成20年は総務省「推計人口」（平成20年10月1日現在）、平成47年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別推計人口（平成19年5月推計）」



## 社会的なニーズ

◆上記図によると、日本は2020年に高齢者数3600万人以上、高齢化率約30%の社会になります。それに反比例して、高齢者1人を支える生産人口は減少し続けます。

2010年代には、現在の総人口から見た時の高齢者割合は“5人に1人”が“4人に1人”から“3人に1人”の社会に移行していきます。

現在でも、定年が60歳から65歳まで伸びるかもしれないという様な話を良く聞くと思いますが、それ以上に定年が延びる事もありませんし、生産人口の減少から収入が減って働きにでる高齢者数も増加していく可能性もあります。

しかし、介護を必要とする人数も増加し、支える世代も高齢者となれば、社会機能低下、いいては、介護サービスの悪化に繋がります。

在宅マッサージの最大の目的は自立した生活を送れる様になってもらう事です。

今、時代の流れと要望が私たちのサービスを求めているのです。

そして、上記データを見る限り今後も継続していく社会的なニーズなのです。